

### 3.

## 2006年夏 瀬戸内海 遠望 2006.8.18.

山や海峡から瀬戸内海はどこまでみとおせるのか・・・

古代 「瀬戸内の海道」は文化伝来の道 大和の国づくりの生命線

「稲作と鉄が文化と共に日本に戦さを持ち込んだ」といわれ、その痕跡が今も点々と残る高地性集落。

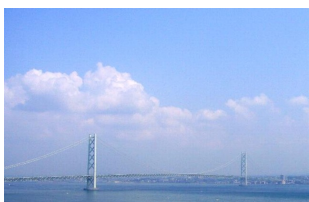
鉄を自給できなかつた時代 鉄の供給路の守りが重要な役割だったかもしれない。

瀬戸内海は古代から 大陸・朝鮮半島から北九州を通して大和へいたる人・文化・物の重要な交流路

弥生時代から古墳時代 日本の国づくりの過程で 地域集団の安全を守るため、瀬戸内海を監視し、

相互に連絡を取る集落(弥生の高地性集落)が沿岸や島の高台や山に点々とあつた。

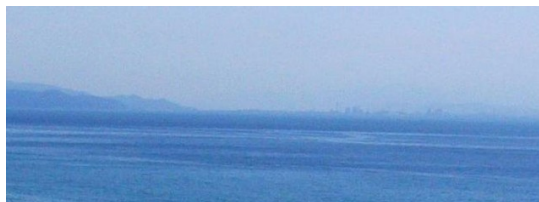
本当に「狼煙」でどこまで見通せるのか この夏 神戸・兵庫周辺の高地性集落をいくつか歩きました



明石海峡・明石大橋



鳴門海峡・大鳴門大橋



紀淡海峡・住金和歌山遠望 淡路島南淡黒岩より

四方を監視する弥生の高地性集落があつた男鹿島



明石海峡から遠くかすむ男鹿島



播磨灘中央に浮かぶ男鹿島

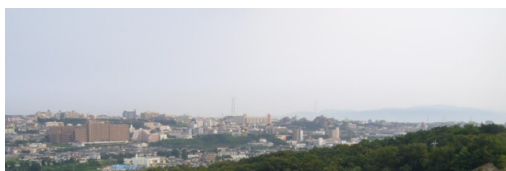


鳴門海峡からみた男鹿島

姫路から船で約30分 播磨灘に浮かぶ家島群島 男鹿島

今は石材採取の裸の島であるが、360度瀬戸内を見渡せるそんな島のひとつ

播磨灘・明石海峡・淡路 鳴門海峡・四国 坊勢島の向こうに備讃瀬戸



神戸伊川谷 表山高地性集落跡より  
明石海峡



播磨灘沖より 姫路周辺  
新日鉄広畑



ロックガーデン  
大阪湾越しに生駒山



備讃瀬戸・備讃瀬戸大橋より



来島海峡・しまなみ海道より



四国高縄半島妙見山より伊予灘・新来島造船

遠く山並みがかすんで判然としない時でも 一筋の立ち昇る煙ははっきりと見えます。

播磨灘の男鹿島からは新日鉄広畑の煙突の煙がくっきり。

また、鳴門・小豆島はすぐ近く 相生から姫路沿岸 淡路・明石海峡も・・・

実際に 明石海峡・鳴門海峡から男鹿島が 遠くかすんで見えました

淡路島からはまた 紀淡海峡にかすむ和歌山が 四国今治高縄半島からは来島海峡の島々が点々と

古代の瀬戸内海 ネットワークを実感しました